

戸沢歌舞伎の祭典 盛衰



津谷歌舞伎（当時）

ここで使用しているイラストには、著作権等により使用制限（有料）されている画像も含まれている可能性がありますので、ご注意ください。

素人歌舞伎とは、歌舞伎を専業とする俳優以外の人たち（農家など）が主として時代物を演じる歌舞伎を言う。

（wikipediaより）

かつて、最上地域各地に素人歌舞伎（「地芝居」とも呼ばれる）があり、村の鎮守の祭りなどで盛んに演じられてきたが、やがて農村社会の変化に伴い、歌舞伎活動も失われることになった。歌舞伎の「傾く（かぶく＝かたむく）」からきていると思われる一風変わった異形を好み者や常軌を逸した行動に走る者を「かぶき者」と呼び、そうした「かぶき者」の斬新な動きや派手な装いを取り入れた「かぶき踊り」が現在の歌舞伎の起原となったと云われていますが、歌舞伎は演劇・舞踏・音楽を融合させた「総合的舞台芸術」と言っても過言ではないのではないか（鮭川歌舞伎保存会より）とも言われている。

多くの若者が熱狂した戸沢村においても、時代の流れとともに後継者はいなくなり、いつの間にか自然消滅の道をたどったが、若いも若きも関係ない熱中ぶりについて語り合った座談会（昭和40（1965）年 戸沢村史掲載）を紹介しながら、賑やかし頃の戸沢歌舞伎について触れてみることにする。

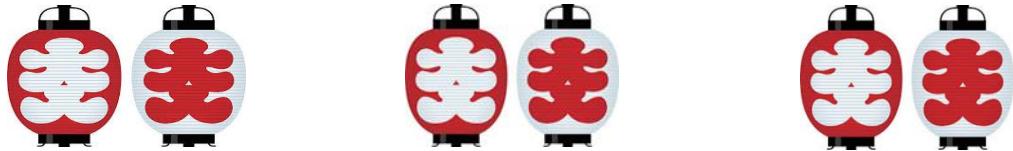


左は鮭川歌舞伎の一場面





歌舞伎（地芝居）はいつ頃、どんな目的で始まった？



いやいや聞いた話ではもっとずうーと昔らし
い、昔は武士の流れ者（浪人）やヤクザが至る
處でバクチをやって旅費を稼いでいたが。地方
の金持ちもバクチに興味を持ち出し、また
一般人も参加した事から、は事もろくにしない
ので考元ついたのが芝居だった。殿さまも武士
との関係から、ヤクザのバクチ禁止の為にも一
拳両得だけでなく、不良化防止、文化向上、娛
楽と一石（三鳥）にもなった。

（蔵岡新栄座）

影沢佐兵氏（明治元（1868）年生）
が”130年位前かな”と語っていたことがある。
(脚注 天保（1831～45）年
間まで遡ることになる。)

（名高日栄座）



京塚（鯉川）芝居が文久（1861～64）の頃からとす
ればおよそ 700 年前で、黒森歌舞伎よりも古いと言われる
ところを見ると、（戸沢歌舞伎は）もっと古いものではな
いか、と想像される。

当時としては大した娯楽もないのに、非常に歓迎され
て夜通し行われたものだと聞いている。 （司会）



ゆう

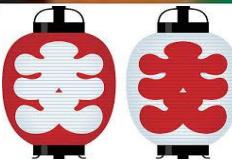
明治になって、巡査も歌舞伎を大いに奨励したやうだ。今80歳くらいの人（脚注 明治20年前後生まれか）が若い時代にもバクチが流行して、良家の息子が家から金を持ち出して、山中に小屋掛けでやっていのを見た巡査は取締りに困って、芝居を奨励し夜明けまで大いに“ぶて”と言った。当時の巡査といえば中々、権威があったので、その巡査が“ぶて”と言ったから堪らない…“ぶつ”と言うのは「バクチを打つ」こと。芝居をやることも「うつニぶつ」と言った…巡査の“うて”は芝居を打て、ということで、それをバクチと聞き間違えたから堪らない。收まらないのは良家（金持ち）だ。およ（警察）がバクチ打ちを勧めるとは、とプリプリ憤慨したやうな。

（蔵岡新栄座）



芝居の指導はどう
したのか？





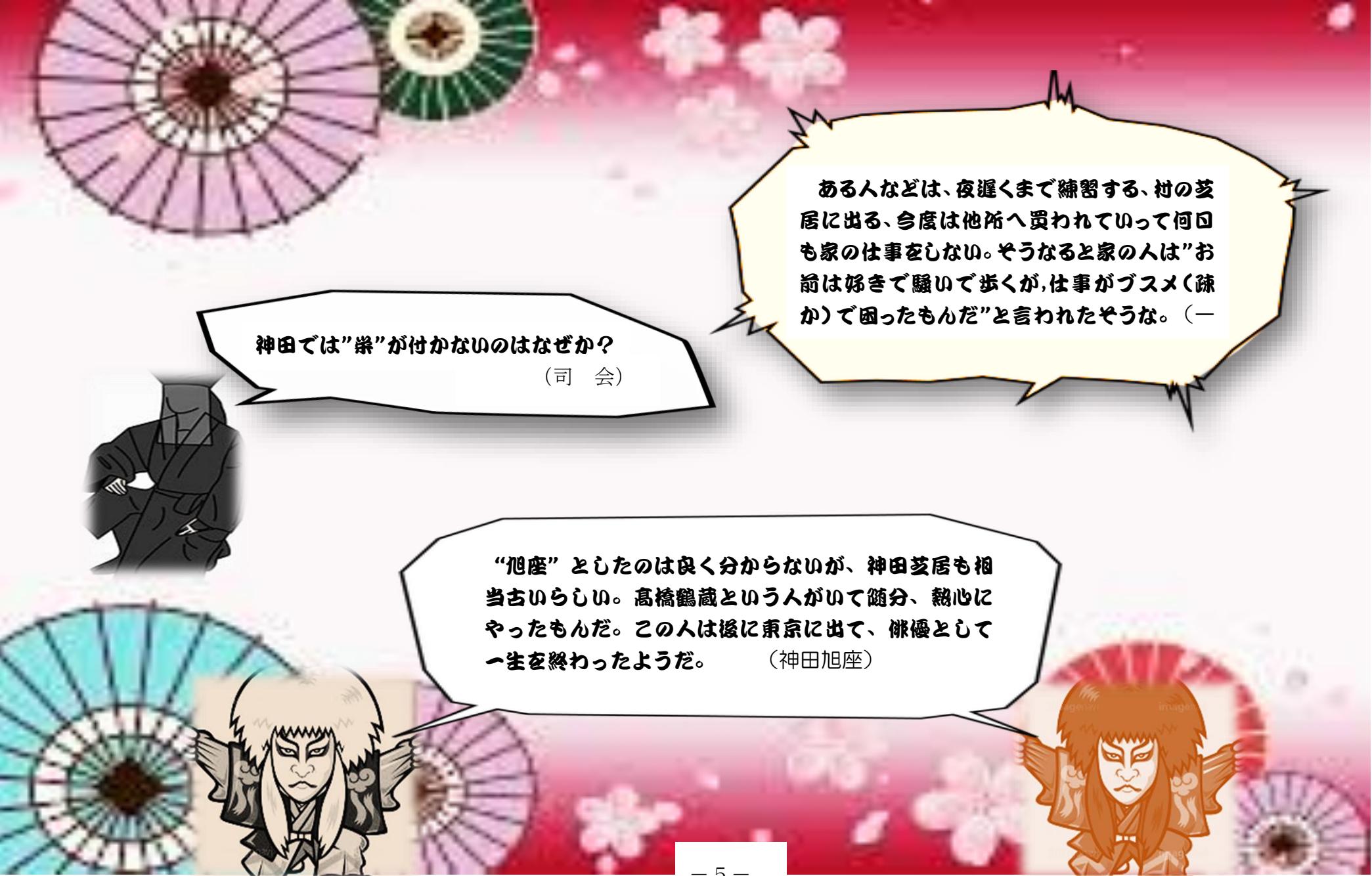
江戸の（歌舞伎）役者で相当うまい人に、沢村梅痴といいう人が流れて鮭川の上大端辺りに来て”芝居を教えてやる”と言ったが余り乗気がなかったので松坂に来た。義太夫語りには光太夫といいう人が同行して、中やうまかったので大歓迎されたそうな。若者が同志を誘って熱心に稽古をし、毎日弁当を持ってコエ革（脚注 堆肥用）刈りに出て行くが、革は一本も刈らず、芝居の稽古だけだったそうだし、同志はコメ、味噌、小遣いをやって置つておいたとのことだ。後になってその若者自身もその手だったが、若者の父も自分もやっていた手前、少しも叱らなかった…

（松坂松栄座）



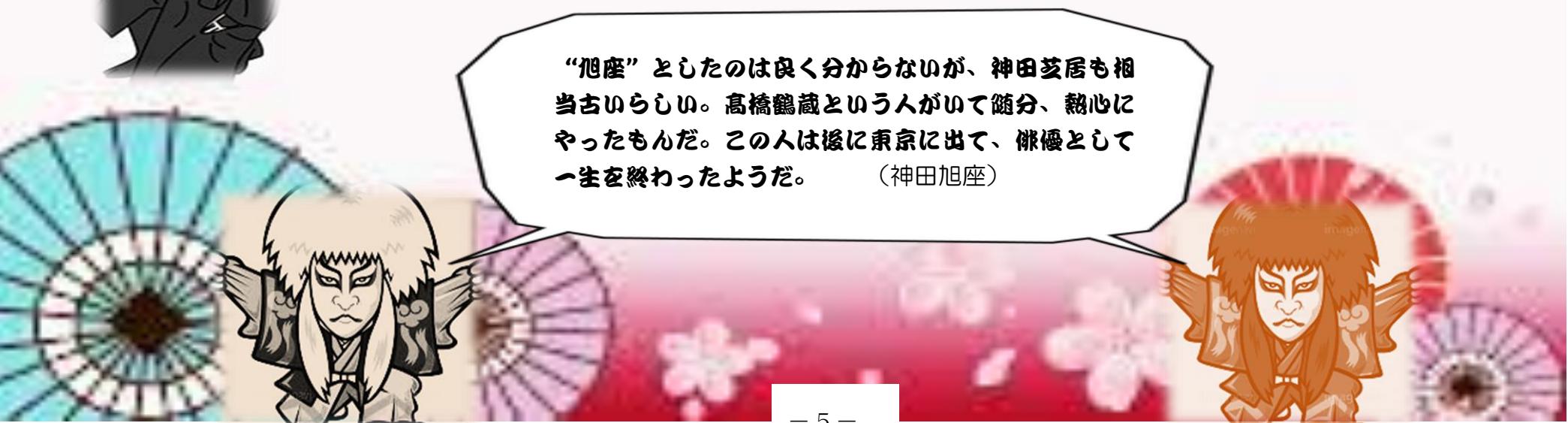
20歳頃、光太夫に40晩も通って「関戸」上下、「千本桜」、「恋の山」「将門」をものにじて得意だったが、祖父もやったので朝、革刈りはその祖父が練習中にやってくれた。夜遅く…むしろ朝に帰って眠い絲を寝かせてくれて、その代りに”どうせやるなら恥ずかしくないやり方をせー”と、むしろ激励してくれたそうな。

（名高日栄座）



神田では“堺”が付かないのはなぜか?
(司 会)

あるなどは、夜遅くまで練習する、村の芸居に出る、今度は他所へ買われていって何回も家の仕事をしない。そうなると家の人は“お前は好きで騒いで歩くが、仕事がブスメ(疎か)で困ったもんだ”と言われたそうな。(一



“旭座”としたのは良く分からぬが、神田芸居も相当古いらしむ。高橋鶴藏という人がいて随分、熱心にやったもんだ。この人は後に東京に出て、俳優として一生を終わったようだ。 (神田旭座)

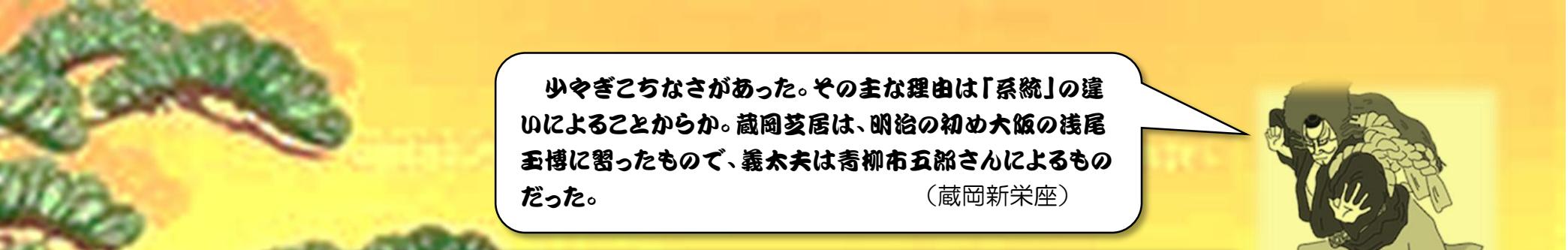
由緒深い芝居であるだけに昭和30年頃、歌舞伎振興の意味で旧知が集って盛大な興行をやり、関東観光社長から立派な引幕の贈与をあったそうだが、何十年もやらないが、(興行は)中々の出来映えだったそうですね…

(司会)

年を取って、身体のこなれも思うようにならないし、それに中々(芝居に)あわせるのに一苦労だった。(一同)

いやいやどうして立派なものだったそうですね

(司会)



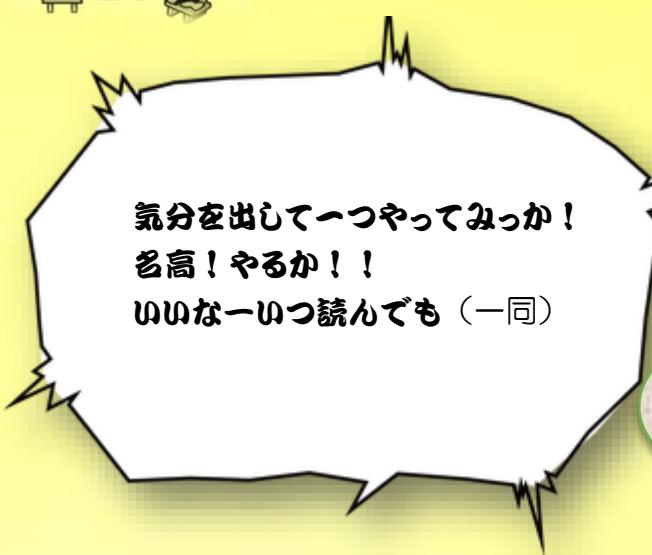
少々ぎこちなさがあった。その主な理由は「系統」の違いによることからか。藏岡芝居は、明治の初め大飯の浅尾玉博に習ったもので、義太夫は青柳布五郎さんによるものだった。

(藏岡新栄座)



沢村梅香は、江戸から来たというが相当の年輩であったところを見ると、一線から引退して地方下りでもした人か。松坂で死んで、その遺骨を取りに二人の恩ふが来ていた。光太夫は玉沢三津造と名乗ったが、原籍は西村山郡白岩町(現 寒河江市)で、本名は宍戸民治と言って松坂に婿入りして亡くなった。

(松坂松栄座)

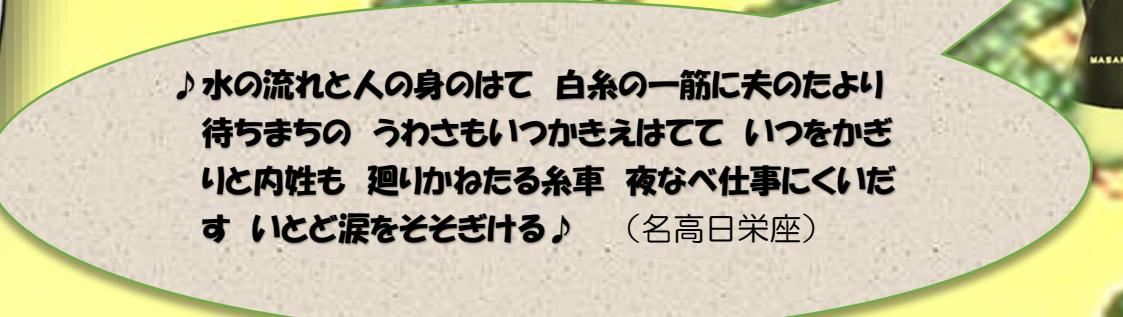


気分を出して一つやってみっか！
名高！やるか！！
いいなーいつ読んでも（一同）



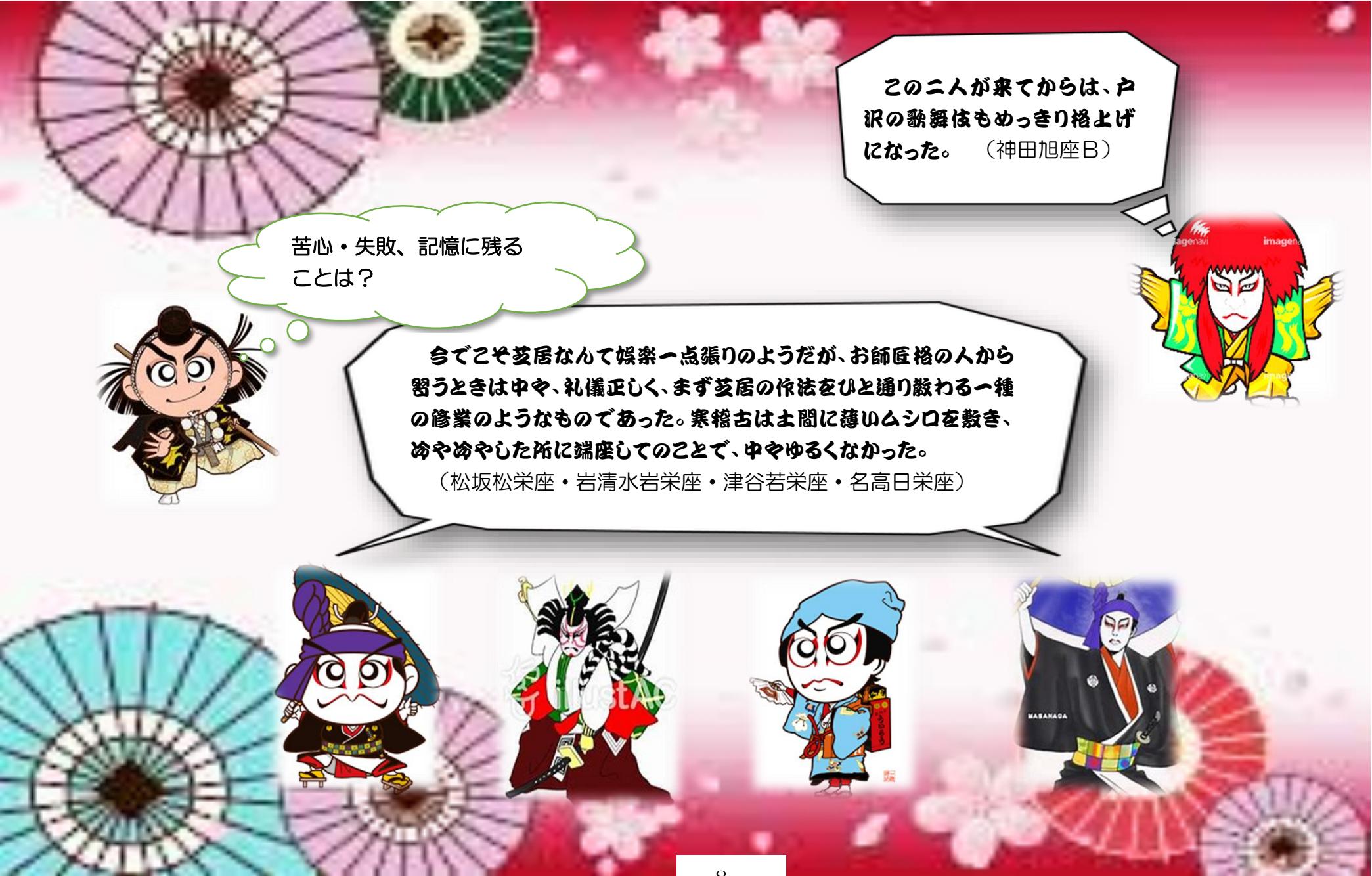
沢村という人は今、考えると技も立派だが、書いた台本を見ると相当な人物のようだ。私に「東山浅倉宗吾」、「白州捲問の場」と「浅倉宗吾ふ別れの段」があるが、その文は非常に立派なもので時々、朗読しても胸がスーとする文章です。

(名高日栄座)



♪水の流れと人の身のはて 白糸の一筋に夫のたより
待ちまちの うわさもいつかきえはてて いつをかぎ
りと内姓も廻りかねたる糸車 夜なべ仕事にくいだ
す いとど涙をぞぞぎける♪

(名高日栄座)



苦心・失敗、記憶に残ることは?

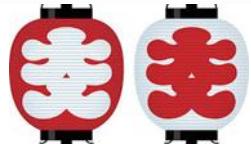
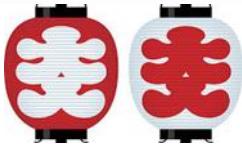


今までこそ芝居なんて娯楽一点張りのようだが、お師匠様の人から習うときは中々、礼儀正しく、まず芝居の依法をひと通り教わる一種の修業のようなものであった。寒稽古は土間に薄いムシロを敷き、冷や冷やした所に端座してのことで、中々ゆるくなかった。

(松坂松栄座・岩清水岩栄座・津谷若栄座・名高日栄座)

この二人が来てからは、戸沢の歌舞伎もめっきり格上げになった。
(神田旭座B)





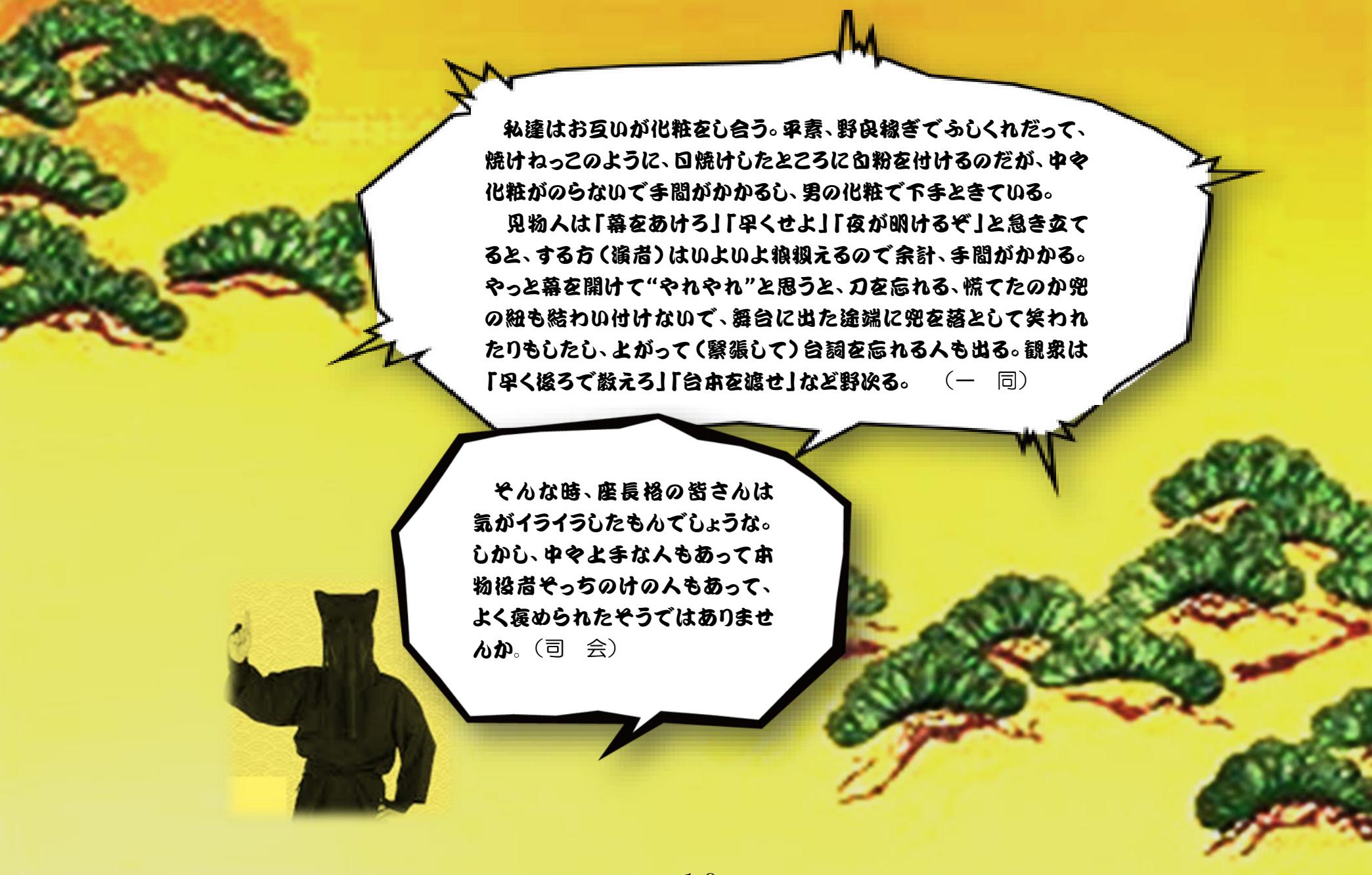
各座の得意題図は)何でもやったが、強いて言えば松坂
「安達が原」、神田「義経千本桜」、多高「忠臣蔵」、岩清水
「太閤記」、津谷「一の谷」、藏岡「忠臣蔵」そして本郷「義
経千本桜」かな。これをやる時は各々の図は光った。

(一 同)

よく夕方から始めて翌朝3時頃で霜の降りる頃やっと終わって、芝
居見が家に帰ると、若衆は“これから寝ると寝忘れるから”とそのまま
朝草刈りに行ったものだようだが。

(司 会)

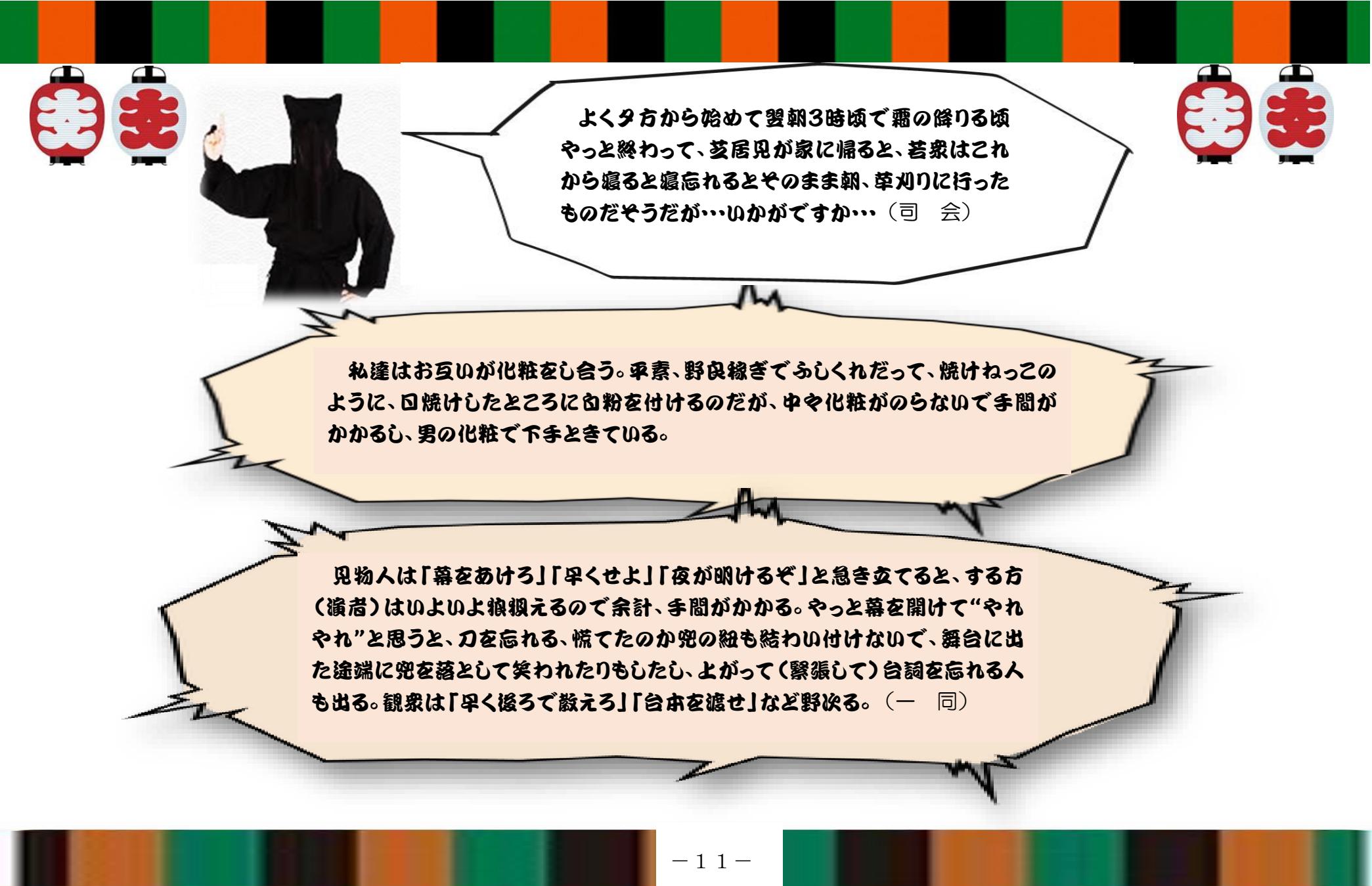




私達はお互ひが化粧をし合う。巫素、野良稼ぎであしくれだって、焼けねっこのように、凶焼けしたところに白粉を付けるのだが、中々化粧がのらないで手間がかかるし、男の化粧で下手ときてゐる。

見物人は「幕をあけろ」「早くせよ」「夜が明けるぞ」と急き立てる。する方(演者)はいよいよ狼狽るので余計、手間がかかる。やっと幕を開けて“やれやれ”と思うと、刀を忘れる、慌てたのか兜の紐も結わい付けないで、舞台に出た途端に兜を落として笑われたりもしたし、よがって(緊張して)台詞を忘れる人も出る。観衆は「早く後ろで敵元ろ」「台本を渡せ」など野次る。(一 同)

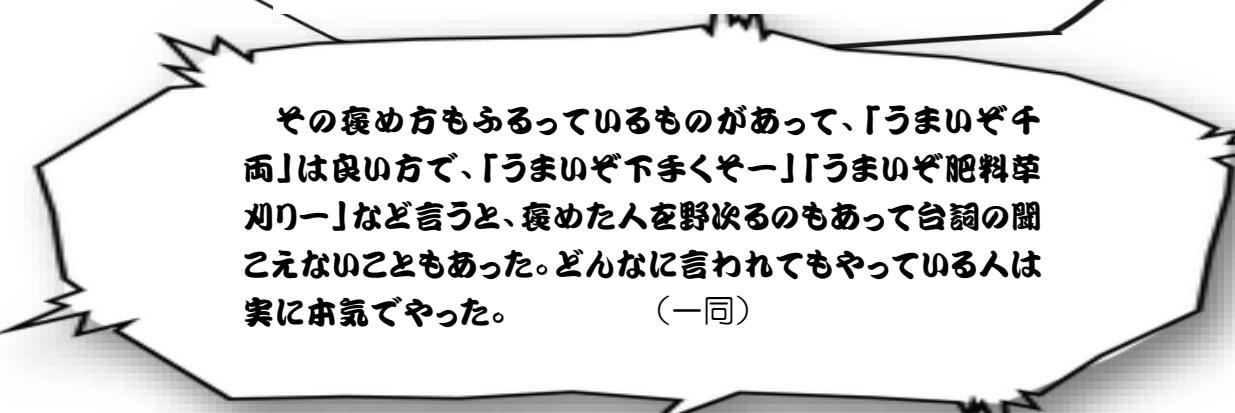
そんな時、座長格の皆さんは気がイライラしたもんでしょうね。しかし、中々上手な人もあって本物役者そっちのけの人もあって、よく寝められたそうではありますか。(司 会)





そんな時、座長格の皆さんは気がイライラしたもん
でしううな。しかし、中や上手な人もあって本物役者
そっちのけの人もあって、よく寝められたやうではあ
りませんか。

(司会)



その寝め方もあるっているものがあって、「うまいぞ千
両」は良い方で、「うまいぞ下手くぞー」「うまいぞ肥料草
刈りー」など言うと、寝めた人を野次るのもあって台詞の聞
こえないこともあった。どんなに言われてもやっていれる人は
実際に本気でやった。

(一同)



将川に買われていった時、黒森歌舞伎と向かい合って架け小屋が出来てお互い競った。その時に荒川
治兵衛さんが社長会長で、奈緒を持って行ったが、名高の方は技において少々劣るような気がしたが、荒
川会長の指示で黒森側のやっている時、ダガダガはやし立てたので、黒森側はほうほうの体で引揚げた
ことがあった。

(名高日栄座)



岩清水芝居が古口に買われていった時、イカ中毒で腹痛を起こして困ったことがあったし、どこに買われていった時だか忘れたが、岩清水芝居は上手だと評判もあって、余りに褒められて、大いに舞台を跳ね回って舞台下に転げ落ちて大団り、観衆は大はしゃぎになったこともあった。

（岩清水岩栄座）

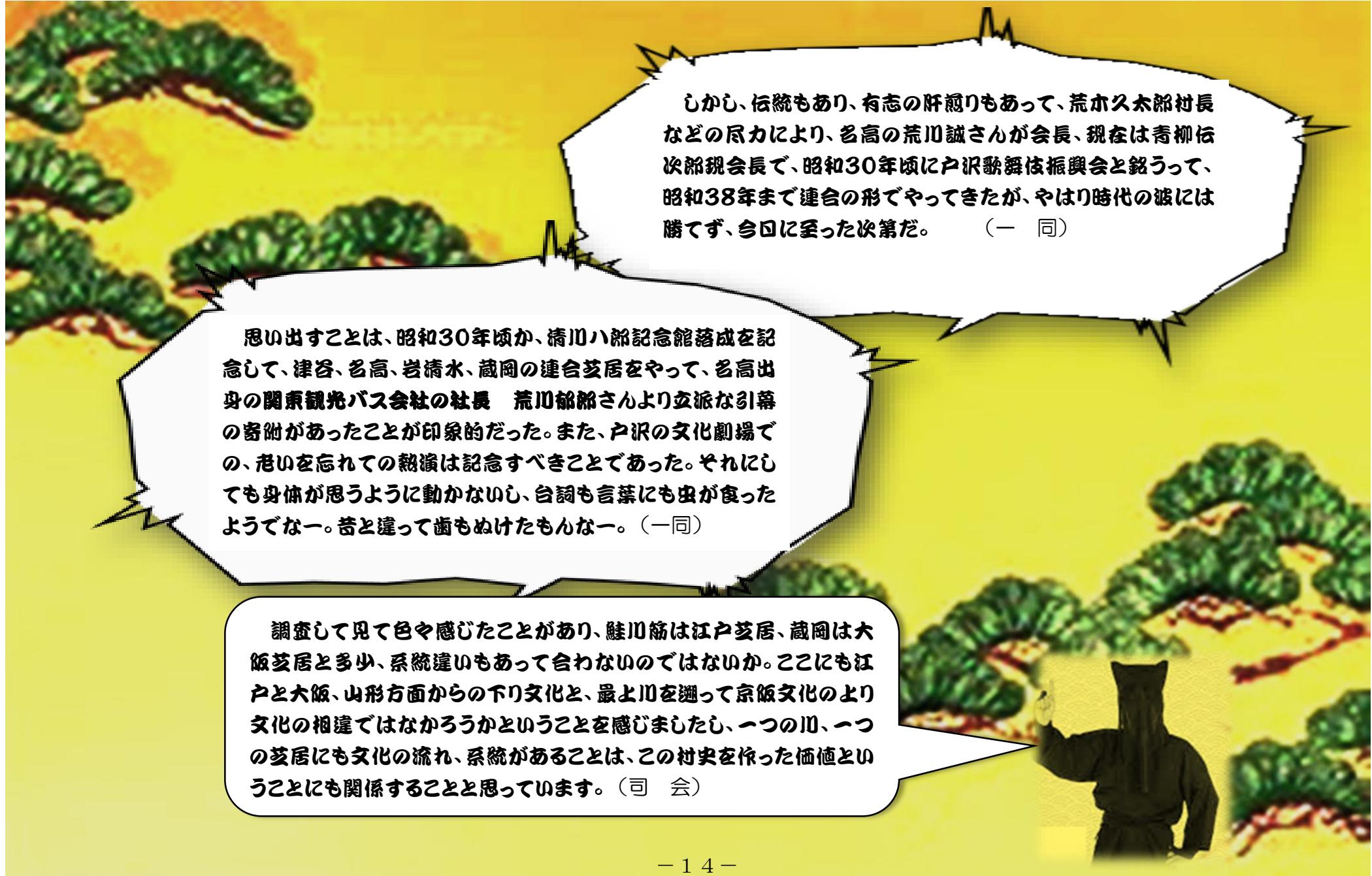


沢村梅岳の技は大したものでした。私は村のこの道の先輩である寧食伝左工門さんから聞いたのだが、梅岳が将棋盤の上で踊ると8畳間いっぱいに広がるようになり、全く見惚れているばかりであったとのことだった。私の村にあった梅岳の記念品も大切に保存されてあったが、保存先の家の失火で鳥有（うゆうニ皆無）に帰したことは誠に残念であり、皆さんの村やに残っている記念品を見るにつけ、昔が蘇ってきます。（角川本郷座）



（歌舞伎は）いつまで
続いたのか？

終戦になって、中央から劇団や浪花節語りが地方に下ってきた。新庄あたりには一流どころが次々とやって来る。我々の土奥いのろまな、幕間の長いものは、ピンぼけでは中々受けてくれないし、何日も練習して金を掛けても流行らない芝居になってしまって、いつとは無しに廃れていったのではなかろうか。多分、昭和29年頃でひと盛りが過ぎた感じでしょうか。（一同）





鮭川歌舞伎



大人盛況だった、かつての津呂歌舞伎は千秋楽の一場面



鮭川歌舞伎みたいに若者が興味を持ち、いつか“と
ざわ芸術文化フェスティバル”で戸沢歌舞伎を再
現できるようになればいいなー（編集後記）



歌舞伎衣装と台本(津谷)

